

2025年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任
公民	公共	2	1年次	榊原伸哉・村上可教

選択するときの条件	必修科目なので、必ず履修してください。			
-----------	---------------------	--	--	--

使用教科書	公共(東京書籍)	使用副教材	公共ワークノート(東京書籍)
-------	----------	-------	----------------

科目の目標	道徳教育のねらい
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。	「公共」は高等学校の道徳教育の中核科目である。人間と社会との関わりを重視して学習活動を展開し、自立した主体として国家・社会の形成に参画する力を育成する。

学習活動内容	育てたい6つの力(資質・能力)					
	1	2	3	4	5	6
	主体的学習力	基礎力	思考・分析力	発信・表現力	自他認知・協働力	計画実行力
第1部 公共の扉						
1 第1章 公共的な空間をつくる私たち	○	◎	○	○	○	
2 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き	○	◎	◎	○	○	
3 第3章 公共的な空間における基本的原理	○	◎	◎	○	○	
第2部 自立した主体として社会に参画する私たち						
4 第1章 民主政治と私たち	◎	◎	○	○	○	
5 第2章 法の働きと私たち	◎	○	◎	○	○	
6 第3章 経済社会で生きる私たち	○	◎	○	○	○	
7 第4章 私たちの職業生活	○	○	◎	○	○	
8 第5章 国際社会のなかで生きる私たち	○	○	◎	○	○	
9 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	◎	○	○	○	○	◎
課題提出	◎		◎	◎	○	◎
考查	◎	◎	○			○

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解している。また、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価の方法	①観点別評価 各評価の観点について以下の点数を配分し、それぞれの達成度合い(%)をABCで評価する。					
	観点	場面	授業での取組	課題への取組	定期考査	各観点の配点
	知識・技能		10	20	70	100
	思考・判断・表現		10	30	20	60
	主体的に学習に取り組む態度		20	10	10	40
	②100段階評価(定期考査毎)および5段階評定(学年末)					
	①の各観点の配点の合計(200点満点)を100点に換算し評価する 学年末に右表により5段階(5~1)で評価する。<評定>					
	十分満足、特に高い	5	80~100			
	十分満足	4	65~79			
	おおむね満足	3	45~64			
	努力を要する	2	30~44			
	努力を要する、特に低い	1	0~29			

公共 授業計画

		学習指導計画			実施状況	
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月	第1部 公共の扉(/14) 第1章 公共的な空間をつくる私たち(5)	公共的な空間を作る主体となるための適切な問いを設け、課題追求や解決への活動を通して、「公共」の学習で扱う公共的な空間における人間としての在り方について関心を高め、課題を意欲的に追求する態度を養う。	①青年期と自己形成の課題 ②自己形成と社会への参画 ①個人として尊重される社会 ②社会的な存在としての人間 ③伝統・文化の中の人間		
	5月	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方(4)	社会に参画し、他者と協働する倫理的主体となるための適切な問いを設け、選択・判断の手掛かりとして、現代の諸課題を意欲的に追求する態度を養う。	①功利主義と幸福の原理 ②義務論と公正の原理		
	6月	第3章 公共的な空間における基本的原理(5) 前期中間考査(1)	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など日本国憲法の考え方の理解を基に、個人と社会との関わりにおいて、公平・公正に調整するための基本的原理を考察し、表現できる適切な問いを設け、公共的な空間において生じる課題を考察することの大切さを理解する。	①公共的な空間における協働とは ②民主主義とは ③立憲主義とは ④人権保障の意義と展開		
	7月	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち(/46) 第1章 民主政治と私たち(9)	主権者である国民が政治の在り方について最終的に責任を持つことを認識する。地方自治などの身近な事例を用い、政治的関心を高め、選挙の意義などを理解し考察する。	①私たちの民主政治 ②地方自治のしくみと役割 ③国会のしくみと役割 ④内閣のしくみと役割 ⑤政治参加と選挙 ⑥政党と利益集団 ⑦メディアと世論		
	8月	第2章 法の働きと私たち(8)	・法が公正なルールとして備えるべき特質を理解し、法の適切さ・法の役割の限界を考える視点を身に付ける。 ・多様な契約により様々な責任が生じること理解しつつ、消費者保護の法的規制などが行われていることも理解する。 ・裁判員制度から国民の司法参加の意義について理解する。	①法と社会規範の役割 ②法の成立と適用 ①市民生活と法 ②多様な契約 ③消費者の権利と責任 ①司法のしくみと役割 ②刑事司法と司法参加の意義		
	9月	前期末考査(1) 第3章 経済社会で生きる私たち(9)	・市場機構と市場の限界について理解する。 ・金融市場のしくみと金利の働き、各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策について理解する。 ・財政及び租税の役割については、経済政策には対立する可能性のある目標の実現を調整する必要があること、また日本の社会保障の現状と課題などを、医療、介護、年金などに見られる諸課題を通して理解できるようにする。	①私たちと経済 ②市場経済のしくみ ③国民所得と経済成長 ①金融のしくみと働き ②中央銀行の役割と金融環境の変化 ①財政の働き ②財政の課題 ③社会保障の考え方 ④社会保障の課題とこれから		
後 期	10月					
	11月	第4章 私たちの職業生活(6) 後期中間考査(1)	働くことの意義、労働の在り方、キャリア形成の課題、実際の労働問題、雇用環境の変化、仕事と家庭生活の両立などについて理解し考察する。	①働くということ ②多様な職業選択 ①労働者の権利 ②現代の雇用・労働問題		
	12月	第5章 国際社会のなかで生きる私たち(14)	・国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割について理解する。また、領土に関する国際的取り決めについても理解できるようにする。 ・現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題等について理解する。 ・平和主義について、変化する国際情勢の中で、日本の安全と世界の平和の維持がいかに関連しているかについて理解を深める。 ・自由貿易推進に向けた体制、為替のしくみと外国為替市場、現在の国際経済秩序とその動き、地域統合などについて理解する。	①国際社会の成り立ち ②国際連合の役割 ①日本の平和主義と冷戦 ②冷戦後の世界と日本 ①現代の紛争とその影響 ②平和な国際社会に向けて ①貿易のしくみ ②国際金融のしくみと動向 ③グローバル化と今日の国際経済 ④国際経済の諸課題		
	1月					
	2月	後期末考査(1)				
3月	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために(6)	現代社会の諸課題について、課題を設定し解決に向けて必要な情報を収集・分析・考察する。探究結果や自分の主張を論拠を明確にして説明・表現する。				